

## 幡多青少年の家 食品衛生事業功労者厚生労働 大臣賞を受賞

高知県立幡多青少年の家が、食品衛生事業功労者厚生労働大臣賞を受賞しました。



大方青少年育成会で働く皆さん

10月24日（木）には、東京都で行われた表彰式に同施設の松井和久事務局長が参加しました。

同施設は高知県の社会教育施設で、「一般社団法人大方青少年育成会」が委託され運営しています。昭和52年に開所し研修などの受入をしながら、「食育」や「朝食の大切さ」を伝えたいと、施設・設備などの衛生管理に気を配り利用者などに食事を提供してきました。都築めぐみ厨房係長は、「この施設が始まってから42年。代々ここで働いてきた方たちの努力の積み重ねで、今回の受賞に至った。今後一人ひとりが意識を高く持ち、ずっと引き継いでいきたい」と話しました。

## はたのおと2019

幡多地域を舞台とした研究発表会「はたのおと2019」が11月3日（日）、大方あかつき館・レクチャーホールで開催され、町内外で研究を進める人々が発表などを行いました。



ポスター発表の会場

最初に行われた講演では、3名が「天日塩作り」、「町の防災対策」、「幡多の文化」とそれぞれの分野について発表をしました。また、午後からは発表者がそれぞれ研究してきた内容を1枚のポスターにまとめたものを来場者に向けて説明をするポスター発表が行われ、計14名が自然環境や地域の生業などについて話しました。参加した人は「普段聞けない話がたくさんあり、興味深かった。それぞれが熱心に研究していることが伝わってきた」と話しました。そのほか、藻場再生のウニ殻を活用した標本作り体験教室も行われました。

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです（隔月掲載予定）。



### 黒潮町砂像連盟 代表 武政 登

11月2日（土）頃から、浮鞭の砂浜にクジラやイルカをモチーフにした「砂像」が作られていたのをご存知ですか。砂浜美術館の30周年を祝い、町砂像連盟を中心に、鹿児島県南さつま市や福岡県芦屋町の砂像連盟も応援に駆けつけ大小さまざまな砂像が作られました。

「砂像」とは、砂と水だけで作られる彫刻のこと。「大人の本気の砂遊び」を楽しむ、町砂像連盟の武政さんにお話を聞きました。

#### 砂像を作り始めたきっかけは？

初めはTシャツアートの企画の1つとして入野の浜に砂像を作ったと思うがやけど、その時ジャンケンに負けて砂像を作るための型枠を作ることになったことがきっかけ。今やけん言えるがやけど、それから仕事を4日休んで砂像のことがぼかりしよった。それから約30年。今は約15人が町砂像連盟に加入しちよって、会員は岐阜や埼玉にもおる。作るときは黙々と孤独な遊びやけど、終わった後みんでワイワイ飲めるのが最高やね。

#### 現在の活動内容は？

全国各地で開催される大会に出たり、依頼があればテーマに沿った砂像を作ったりしてる。町ではTシャツアートの展の「ビーサン飛ばし」で毎回砂像を作りよるよ。10月にも福岡県で開催された「あしや砂像展2019」に参加してきたよ。砂浜によって砂にも特徴があつておもしろいね。

「一番の思い出は？」  
そりゃあ日本代表としてカナダであった世界大会に出場したことやね。大会ではいろいろなことに挑戦できるけんとても楽しいし、世界に行けたことは最高の思い出。



ひらひらの風景と砂像のコラボ

#### ズバリ、砂像の魅力は？

砂と水と心で作るところ。あと最終的に崩れてしまうことが楽しいね。残ってしまうとおもしろくない。良いものが作れても、うまくいかなくても崩れる。それが砂像の良いところ。最高の出来というのはなかなかない。毎回練習やね。たまに入野松原の前の砂浜で作るけん見かけたときは優しく声をかけてや！

## まほろば Vol.2 くるしお



砂を盛って形作り